

大成町のこれまでの歩み

九月一日をもって、大成町は閉町を迎え、新たに「せたな町」としてスタートします。当町における人類の形成は縄文文化前期とされ、永きにわたり大成町の歴史が刻まれてきました。これまでのできごとを中心に、大成町のこれまでの歩みを振り返ります。



貝取潤二洞窟における遺跡の発掘調査
(平成2年6月)



武田信宏より太田権現の尊号を賜った
本殿を目指す「御山掛け」

大成町史年表(抜粋)

年号	西暦	事	項
享徳三	一四五四	・武田信宏が奥尻探索後、太田湾に上陸、太田山踏査、太田権現の尊号を賜る。	
寛永十四	一六三七	・松前藩福山城出火、城と城下町延焼七世藩主公広負傷、厚谷貞政新下(後四郎兵衛)、身の危険をかえりみず救出にあたり重傷を負い翌日逝く、藩主公広この功を讃え宇須辺知領一円を賜わる。	
寛文六	一六六六	・美濃の国円空太田に巡礼する。洞窟にこもり多くの仏像を彫る。	
宝永元	一七〇四	・越前国正光寺空念太田山に詣り観音経を奉納する。	
		・厚谷四五平(四郎兵衛)が請負人となり、支配人石橋屋松兵衛を配し、ウスベツに運上屋を置く。	
天明三	一七八三	・クドウ初鯨群来大漁。内地からの出稼者は入役として男一貫二文、滞在して越年は六百元加算して江差番所へ納め、和入地の人は請負人に二分払う。	



都遺跡の発掘調査(昭和42年12月)

■いつからこの地に人が住みついたか

最初の人類形跡は「都遺跡」「小歌遺跡」から出土した石器、土器等の遺物から推測すると縄文前期(五千五百年前)にもう人類が住んでいた。また、貝取潤海岸沿いの山側にある洞窟を平成二年より六年間にわたり毎年十日程度、北海道開拓記念館の事業として学芸員一行六名が発掘調査を実施し、その結果多くの遺物を採取、それらを調査したところ縄文後期(約千五百年前)にここをめぐらに古代の人が住みついていたことが判明した。彼らが海・野山での狩猟生活をしていただことが遺物の内容から推測できる。北海道が蝦夷地と言われた時代、松前領地以外は和人の居住は御法度、しかし、それに拘わらず和人が住んでいた。寛永十四年(一六三七年)厚谷新下貞政松前七代公広より勲功により宇須辺知一円を知行地として拝領している。その六十三年後の宝永元年(一七〇四年)松前唐津の人、厚谷四五平請負人となり支配人を配し、ウスベツに運上屋を置いた。この時、支配人その他数人がここに住み始めた。これが和人の最初の住人となったものだろう。享保四年(一七一九年)熊石より先々追鯨に参り候船より毎度熊石番所へ差出候・・・この追鯨に出漁するには、その地の場所請負人との契約が必要となり、許可されれば収穫物の二割または一割を請負人に納めることになる。請負人にとっては収益を上げるチャンスと見做され、自分の場所に追鯨業者が入漁することは収益につながるので歓迎したことであろう。この地に漁に来る者を出稼者と言って年中受け入れられる。入役として男一人一貫二文、ここに越年するときは六百元加算、江差番所に納める。鯨漁では高い入漁料を払っても、高い収入を得られる。生計の安定を保つためには、越年料を支払って小屋を建て、落ち着いた年の中働けることが魅力であったろう。和人の定住の始まりは、この越年と言う方法があった。その裏付けとなる貴重な書類がある。慶応元年に西地九膳雲御場所越年家人別書と言う書物を請負人が役所に提出している。これによると越年小屋四十九軒、人別二百二十七人、男百二十七人、女百七人である。これには何時から越年を始めたのか年号も家族数も書き込まれている。

■「漁業の町大成」の基盤を形成した先達の記録

鯨漁を生業とした先達、春の鯨が豊漁であるところの半年は寝て暮らすと言われた。明治以前の蝦夷地は、和人が自由に住めない場所、漁が終わると自分の国元へ、しかし、厳しい規制も時代とともに緩やかになり、役所に越年料を支払うと住めるようになる。仮小屋を建て、鮭・鱒・イカ等の漁獲に従事、現在の漁業につながる。明治になって誰も自由に住めるようになってからも鯨漁で財をなした先達も少なくない。さしもの鯨も大正四年を最後に幻の魚となった。寛政元年（一七八九年）の春、菅江真澄は数日間久遠に滞在し見聞した鯨漁を次のように描写している。

「鯨が群来てくるころは都会の雑踏にまさるほど賑わしくなり、海は真つ白く白みわたつてやすの柄、舟の櫂などを魚の群れの中に立てても土に刺したようであれませぬ。舟は木の葉を散らしたようにたくさん漕ぎだし櫂・梶の音が山をゆるがすように響き昼夜をわかつた海と陸とも人が往来して忙しい。また、火をたてると言つて、ここの磯から火を高く焚いて鯨の群れが来たとかかの浦に知らせます。」

明治期の鯨場の作業風景描写図



寛政 元	文政 元	天保 二	弘化 二	嘉永 五	安政 二	三 一	四 一
一七八九	一八一八	一八三一	一八四〇	一八五二	一八五五	一八五六	一八五七
・三河の人菅江真澄が久刀布を通り太田山参詣し、見聞した風俗・習慣などまとめる。円空の彫った仏像の多く安置されていることも絵を描き文を記す。	・幕吏三橋藤右衛門一行二十七人外松前藩士等クドウ澗に入り巡視する。	・太田山岩窟に内祠を造り不動尊外童子二神を津軽の人山田助右衛門が安置する。	・乙部村の争貝取澗に越年する。	・熊石の人斉藤久右衛門が平田内に越年を始める。	・江差の人神野彦衛門が太田に越年を始める。	・石橋松兵衛が箆網を使用する。	・松浦武四郎が熊石よりクドウに入り太田を通る。
・真言僧宗俊が太田山の別当として居住する。	・石橋松兵衛が牝馬四頭を購入する。箱館奉行より牝馬五頭下与される。	・宗俣諸人のため太田遥拝所前後一里半を開削、箱館奉行より三十両賜る。	・帆越山麓に観音石像を配す。以後観音山という。	・箱館奉行付松浦武四郎がクドウ領を巡視する。太田山参詣。	・箱館奉行支配頭向山源太夫がクドウ領受取りのため来る。	・江差の鈴木甚右衛門、津軽の庄兵衛、関内からフト口に至る山道開削を出願許可される。	・箱館奉行調査下役をクドウに置く。
・三月、太田山道開削に着手し翌年五月完成する。							

■温泉発見顛末記（貝取澗常盤温泉）

明治の始め、鯨漁を営む親方大森八兵衛が番屋を貝取澗に置き鯨の群来る春までは江差に住まい漁期はこの地で過ごす。その年の漁を終え番屋に留守番の若者豊吉を置き引き上げた。春先き漁時期も近くなつたので船で使う材料を求め貝取澗の沢に入り手頃な材料を探している間にいつしか沢の奥に迷い込んでいた。悪いことに天候が一変し粉雪が舞つてくる。これは大変と急いで帰り支度をして戻ろうとした。その頃から吹雪はつり白一色の世界は足の向く方向が里と反対になつていくことに気づかずひたすら歩きに歩く。いつしか疲れ果て気力も薄れその場に座り込む。どのくらいいたつたのか、いつしか睡魔に取りつかれ眠つていた。目をさました時吹雪も止みあたりは静か、このままでは凍死すると思ひ立ち上がる。ふと、前方に積もつた雪のあたりから煙のようなものが、恐る恐るその場に行く、そこだけが黄色い土、そこから水がぽこぽこ噴き出している。手を入れたと熱い、温泉だ。冷え切つた手足をひたしているうちに寒気も引き入心地がつく。元気を回復した豊吉、危険から脱したことと温泉を発見した喜びで一杯だった。冷静になつた彼は、里の方向を見極め迷つことなく番屋に帰りつく。一部始終親方に話す。「良く助かった。普段の心掛けが良いから神のご加護だろう。どんな温泉が見たいので案内してくれ」。早速豊吉は親方を案内、発見現場に、温泉は勢よく噴き出している。小屋を建て湯治場にするとなり、次の日から材料を運び湯治場をつくる。評判を聞いた里の人々、隣近所誘いあつてやってくる。湯は豊富、里の人達の憩いの場となった。永久に尽きることのない温泉であるようにと「常盤温泉」と名付けた。現在は山奥の湯元から国民宿舎「あわび山荘」や国民保養センターに温泉を引き心と体の疲れを癒す温泉郷として親しまれている。



明治の頃「豊吉」が辿った貝取澗溪谷を自然観察する風景



新装した「湯とびあ白別」の露天風呂で温泉入浴を楽しむ観光客

■菅江真澄の湯浴みした白別温泉の大人伝説

二百数十年前太田山を参詣した真澄、その日はアイヌの家で宿を借り次の日は「くどぶ（久遠）運上屋に泊まる。翌日ひらたなに着き鯨小屋に泊まらせてもらう。朝、この家の人達がウシジリと言う山奥の温泉に行く」と支度している。「わたしもそのいで湯を見たい。」「いっしょに行こう。」と誘われた。川辺づたいに木賊の原、竹やぶの中をかき分ける路はなし。倒れた木を渡り逆巻く流れの川を三十回ばかりも入って渡った。路は二里ほどしかないのに難渋した。ようやく着いた。深い谷の底を流れる溪流にたぎり混じって湧き出る湯があった。入浴するところをつくろうと木を伐って立て、菅こもで周囲をかこい屋根を覆いむしろを敷くと小屋ができた。着物を脱ぎ湯を浴びたが熱い。また、たいそうぬるい冷泉も、老人が「この湯には知らない旅人がうっかり来て入浴してはならない」と言っていた。大人と言つて口は耳までさけ、身丈のたいそう高い者が普通の人のように化けて入り混じり身の筋を抜くことがある。この山にはそのようなものが住んでいるので大人と熊（ひくま）のことは決して口にしてはならない。」と言った。女の子が「この筆から大人がどんだろ（大木を三尺ほどに伐ったもの）や大石などころがし落とすことがあると聞いた。」などと耳に口をあててささやいた。日が暮れたのでたぎを高く積み火を焚いて七・八人の人がそろって寝た。それは熊を寄せ付けないためのものであった。真澄は白別の地で「いづる湯のけけりの末にさくら花 梢は春の色にかすみて」と詠んでいる。

現在のはかつてあったひなびた湯宿は平成七年に建て替えられ、湯とびあ白別白別温泉として新装され、誰もが楽しく入浴することができる温泉として親しまれている。

年	号	西	暦	事	項
安政	四	一八五七		・安芸の人行者政四良が奉納した太田山の字を象った鉄製の定灯籠を、太田湾を望む大岩に宗俣（後の美泉定山）が設置し航海安全の灯をともし。	
	五	一八五八		・箱館東本願寺営刹中に大乘坊を創立する。	
	六	一八五九		・幕府平田内小川に寄場を設置することに決定。寄場の裏山に稲荷神社を建立する。（開基長坂庄兵衛）	
万延	元	一八六〇		・乙部長徳寺八世大賢和尚志願により、宗谷に至るまで観音像配置第一番を石橋屋宅に安置する。石橋屋自費をもつて一艘濶に小宇を建て観音堂と称す。	
文久	元	一八六一		・菊地又次郎太田場所に改良建網を用いる。 ・長坂庄兵衛差配人となり白別寄場建設に着工する。 ・行脚僧常陸の国安良観音堂守となる。	
	二	一八六二		・長坂恒三郎（太田組頭）太田村へ移住する。 ・白別寄場が完成する。差配人長坂庄兵衛、定役長谷川儀之郎、同心丈野六郎・杉山章右衛門、医師大熊某、足軽二名、小者数名。	
元治	元	一八六四		・白別寄場を廃止。十月に寄場より奥尻へ流罪人十名送る。 ・山田六兵衛が白別より久遠に移り建網を建て、漁舎改築船濶を開掘する。	
慶応	二	一八六六		・斉藤久右衛門、荒谷幸吉が建網を使用する。	
	三	一八六七		・能登の人大森八兵衛が貝取濶に移住し、漁場を開く。	



マンモス岩

日本海をバックにし、わがもの顔に闊歩する一際大きなマンモスは、そのまに岩に変身どっしりと



夫婦岩

春うらな 日本海 海は藍色 どのまでも 岬めぐれば 二つ岩 強風怒濤 避ける よう そばに寄り添い 夫婦岩 仲睦まじき

親子熊岩
溺れる子熊 助けあげ 慈愛あふれるまなざしで 子熊見つめる母熊の 親子の情けが ひしひしと 眺める人の 胸をうつ

■自然が造形した「奇岩めぐり」
長磯から太田の尾花岬まで連綿と続く海岸線、入り江と岬が交叉し、自然の醸した景観は変化に富み、昔も今も変わらぬ姿で大小の奇岩が連なり自然エネルギーの偉大さと造形美を堪能させてくれます

■久遠郵便局の始まり

官設の郵便機関によって、公私用の別なく全国どこでも一定の料金で利用できるようになったのは明治四年（一八七一年）東京大阪でこれが近代郵便の始まりで、北海道では最初の郵便機関が明治五年七月函館につくられ「函館郵便役所」が設置される。

・函館―福山―江差―久遠の西の線
・函館―森（海上を経て）―室蘭―千歳―小樽までの北の線

久遠郡一船瀬村に五等郵便役所が設置され職員一名の五等局として開局。久遠は北海道郵便の最古参に属する。久遠から函館への郵便は月に三回の往復便であつたが、明治八年には月六回の往復便の定期となり明治九年には月九回の定期便に増える。郵便役所設置と同時に駅通所も併設され郵便物はその駅通夫・駅員によって運送された。久遠の隣の駅通は熊石・太櫓・奥尻で奥尻への海路は冬期間が大変であつた。久遠郵便局（明治十四年七月改称）は明治二十一年七月より国内通常為替業務と貯金業務を開始し、明治二十二年十月には和文電信業務が行われるようになる。明治三十三年平田内から奥尻島へ海底電信線が敷設、明治三十五年十二月に太田郵便取扱所が設置、貝取瀬郵便局は明治三十八年に開局し昭和五十八年三月にその歴史を閉じる。宮野郵便局は昭和十九年に設置される。

■歴代の郵便局長

久遠郵便局				太田郵便局			
歴代	氏名	歴代	氏名	歴代	氏名	歴代	氏名
初代	山田六兵衛	初代	長坂 長八	初代	氏名	初代	氏名
2代	山田 久吉	2代	氏家 直方	2代	氏名	2代	氏名
3代	大野亥三郎	3代	長坂 平作	3代	氏名	3代	氏名
4代	佐野又四郎	4代	佐野 小麿	4代	氏名	4代	氏名
5代	佐野 小麿	5代	長坂長四郎	5代	氏名	5代	氏名
6代	佐野 佐守	6代	佐野 佐守	6代	氏名	6代	氏名
7代	齊藤 力	7代	長坂 恒利	7代	氏名	7代	氏名
8代	稲船 弘	8代	宮野郵便局	8代	氏名	8代	氏名
歴代	氏名	歴代	氏名	歴代	氏名	歴代	氏名
初代	氏名	初代	氏名	初代	氏名	初代	氏名
2代	氏名	2代	氏名	2代	氏名	2代	氏名
3代	氏名	3代	氏名	3代	氏名	3代	氏名
4代	氏名	4代	氏名	4代	氏名	4代	氏名
5代	氏名	5代	氏名	5代	氏名	5代	氏名
6代	氏名	6代	氏名	6代	氏名	6代	氏名
7代	氏名	7代	氏名	7代	氏名	7代	氏名
8代	氏名	8代	氏名	8代	氏名	8代	氏名
9代	氏名	9代	氏名	9代	氏名	9代	氏名
10代	氏名	10代	氏名	10代	氏名	10代	氏名
11代	氏名	11代	氏名	11代	氏名	11代	氏名
12代	氏名	12代	氏名	12代	氏名	12代	氏名
13代	氏名	13代	氏名	13代	氏名	13代	氏名
14代	氏名	14代	氏名	14代	氏名	14代	氏名
15代	氏名	15代	氏名	15代	氏名	15代	氏名
16代	氏名	16代	氏名	16代	氏名	16代	氏名
17代	氏名	17代	氏名	17代	氏名	17代	氏名
18代	氏名	18代	氏名	18代	氏名	18代	氏名
19代	氏名	19代	氏名	19代	氏名	19代	氏名
20代	氏名	20代	氏名	20代	氏名	20代	氏名
21代	氏名	21代	氏名	21代	氏名	21代	氏名
22代	氏名	22代	氏名	22代	氏名	22代	氏名
23代	氏名	23代	氏名	23代	氏名	23代	氏名
24代	氏名	24代	氏名	24代	氏名	24代	氏名
25代	氏名	25代	氏名	25代	氏名	25代	氏名
26代	氏名	26代	氏名	26代	氏名	26代	氏名
27代	氏名	27代	氏名	27代	氏名	27代	氏名
28代	氏名	28代	氏名	28代	氏名	28代	氏名
29代	氏名	29代	氏名	29代	氏名	29代	氏名
30代	氏名	30代	氏名	30代	氏名	30代	氏名
31代	氏名	31代	氏名	31代	氏名	31代	氏名
32代	氏名	32代	氏名	32代	氏名	32代	氏名
33代	氏名	33代	氏名	33代	氏名	33代	氏名
34代	氏名	34代	氏名	34代	氏名	34代	氏名
35代	氏名	35代	氏名	35代	氏名	35代	氏名
36代	氏名	36代	氏名	36代	氏名	36代	氏名
37代	氏名	37代	氏名	37代	氏名	37代	氏名
38代	氏名	38代	氏名	38代	氏名	38代	氏名
39代	氏名	39代	氏名	39代	氏名	39代	氏名
40代	氏名	40代	氏名	40代	氏名	40代	氏名
41代	氏名	41代	氏名	41代	氏名	41代	氏名
42代	氏名	42代	氏名	42代	氏名	42代	氏名
43代	氏名	43代	氏名	43代	氏名	43代	氏名
44代	氏名	44代	氏名	44代	氏名	44代	氏名
45代	氏名	45代	氏名	45代	氏名	45代	氏名
46代	氏名	46代	氏名	46代	氏名	46代	氏名
47代	氏名	47代	氏名	47代	氏名	47代	氏名
48代	氏名	48代	氏名	48代	氏名	48代	氏名
49代	氏名	49代	氏名	49代	氏名	49代	氏名
50代	氏名	50代	氏名	50代	氏名	50代	氏名
51代	氏名	51代	氏名	51代	氏名	51代	氏名
52代	氏名	52代	氏名	52代	氏名	52代	氏名
53代	氏名	53代	氏名	53代	氏名	53代	氏名
54代	氏名	54代	氏名	54代	氏名	54代	氏名
55代	氏名	55代	氏名	55代	氏名	55代	氏名
56代	氏名	56代	氏名	56代	氏名	56代	氏名
57代	氏名	57代	氏名	57代	氏名	57代	氏名
58代	氏名	58代	氏名	58代	氏名	58代	氏名
59代	氏名	59代	氏名	59代	氏名	59代	氏名
60代	氏名	60代	氏名	60代	氏名	60代	氏名
61代	氏名	61代	氏名	61代	氏名	61代	氏名
62代	氏名	62代	氏名	62代	氏名	62代	氏名
63代	氏名	63代	氏名	63代	氏名	63代	氏名
64代	氏名	64代	氏名	64代	氏名	64代	氏名
65代	氏名	65代	氏名	65代	氏名	65代	氏名
66代	氏名	66代	氏名	66代	氏名	66代	氏名
67代	氏名	67代	氏名	67代	氏名	67代	氏名
68代	氏名	68代	氏名	68代	氏名	68代	氏名
69代	氏名	69代	氏名	69代	氏名	69代	氏名
70代	氏名	70代	氏名	70代	氏名	70代	氏名
71代	氏名	71代	氏名	71代	氏名	71代	氏名
72代	氏名	72代	氏名	72代	氏名	72代	氏名
73代	氏名	73代	氏名	73代	氏名	73代	氏名
74代	氏名	74代	氏名	74代	氏名	74代	氏名
75代	氏名	75代	氏名	75代	氏名	75代	氏名
76代	氏名	76代	氏名	76代	氏名	76代	氏名
77代	氏名	77代	氏名	77代	氏名	77代	氏名
78代	氏名	78代	氏名	78代	氏名	78代	氏名
79代	氏名	79代	氏名	79代	氏名	79代	氏名
80代	氏名	80代	氏名	80代	氏名	80代	氏名
81代	氏名	81代	氏名	81代	氏名	81代	氏名
82代	氏名	82代	氏名	82代	氏名	82代	氏名
83代	氏名	83代	氏名	83代	氏名	83代	氏名
84代	氏名	84代	氏名	84代	氏名	84代	氏名
85代	氏名	85代	氏名	85代	氏名	85代	氏名
86代	氏名	86代	氏名	86代	氏名	86代	氏名
87代	氏名	87代	氏名	87代	氏名	87代	氏名
88代	氏名	88代	氏名	88代	氏名	88代	氏名
89代	氏名	89代	氏名	89代	氏名	89代	氏名
90代	氏名	90代	氏名	90代	氏名	90代	氏名
91代	氏名	91代	氏名	91代	氏名	91代	氏名
92代	氏名	92代	氏名	92代	氏名	92代	氏名
93代	氏名	93代	氏名	93代	氏名	93代	氏名
94代	氏名	94代	氏名	94代	氏名	94代	氏名
95代	氏名	95代	氏名	95代	氏名	95代	氏名
96代	氏名	96代	氏名	96代	氏名	96代	氏名
97代	氏名	97代	氏名	97代	氏名	97代	氏名
98代	氏名	98代	氏名	98代	氏名	98代	氏名
99代	氏名	99代	氏名	99代	氏名	99代	氏名
100代	氏名	100代	氏名	100代	氏名	100代	氏名

明治 二 一八六九

四 一八七一

五 一八七二

六 一八七三

七 一八七四

八 一八七五

九 一八七六

- ・太政官布告により蝦夷地を北海道と改称し十一国八十六郡を置く。
- ・八月、久遠・奥尻郡福岡藩分領支配となる。
- ・久遠郡は太田・上古丹・一艘瀬・三艘瀬・日方泊・湯ノ尻・平田内・貝取瀬・長磯の九村となる。
- ・一艘瀬村の稲荷神社が新政府から郷社久遠神社として許可される。祠官宇田真弓寺小屋正廼舎を設立し、宇田真弓子弟に読み書きを教える。
- ・神仏混淆禁止の布令、太田山権現の仏像、大日堂建立し遷座する。
- ・開拓使より、太田山神社の社号認可、祭神猿田彦命となる。
- ・八月、諸藩華士族等による分領支配を廃止し、久遠・奥尻郡は福岡藩から開拓使へ返上する。
- ・二月、久遠郡が福岡藩より開拓使へ引渡す。
- ・一艘瀬村に仮病院を置く（福岡藩より引継ぐ）
- ・三月、大年寄・中年寄・町代を廃止、戸長・副戸長・用掛を置く。
- ・十月、函館・室蘭・札幌・小樽間、函館・福山・江差・久遠間郵便路線を開設する。
- ・一艘瀬村に五等郵便役所を開設する。
- ・米国人モンロー一行白別川・小川調査、砂金を発見する。
- ・太田山神社社祠代理小糖口作太郎社務を掌す。
- ・瀬棚・奥尻両郡に勤番所を設け、久遠出張所管理とする。
- ・久遠駅通駅場を建てる。
- ・海関所、江差・寿都・森・久遠・当別・戸井・山越の八出張所となる。
- ・久遠病院を函館病院出張所と改称する。

狸岩

大きなお腹 突き出して 得意満面 その顔は 愛嬌たっぷり 狸岩 月夜の楽しみ 腹づつみ ポンポコボンと打ち鳴らす



三味線岩

沖の力モメが 悲しげに 鳴く音もかきえていく 誰がつまづく 三味の音は 海面をわたり 遙か沖 主を求めて 消えてゆく



太田山

帆越トンネル 通り抜け 視界広がる目の前に 立ちはだかるは 峻嶒の 山岳霊場 太田山 頂き近くの 洞窟は 神がおわす 殿が 冷気ただよう 雲の中



■明治期の歴代戸長

明治十三年（一八八〇年）久遠郡一艘澗村に湯ノ尻村、日方泊村、三艘澗村、一艘澗村上古丹村、太田村の六ヶ村戸長役場が設置され、また久遠郡平田内村に長磯村、貝取澗村、平田内村の三ヶ村戸長役場が設置されるが翌年貝取澗村に移転となる。いづれも野村庵が初代戸長に就く。

■歴代の戸長

久遠村外三ヶ村	
歴代	職名
初代	久遠郡戸長
2代	太田村外五ヶ村戸長 (後 久遠村外三ヶ村)
3代	久遠郡外三郡長 (兼 久遠村外三ヶ村戸長)
4代	久遠郡外三郡長心得 (兼 久遠村外三ヶ村戸長)
5代	久遠村外三ヶ村戸長
6代	氏家 直方
7代	三浦邦之助
8代	齊藤 武美
9代	村賀多良明
貝取澗村外二ヶ村	
歴代	職名
初代	久遠郡戸長
2代	貝取澗村外二ヶ村戸長
3代	野村 庵
4代	長嶺 将則
5代	大高 弘
6代	磯松年太郎
7代	蒔苗 清彦
8代	菊地 正吉
9代	露口 三松
10代	泰 鉄治
11代	奥平 了
12代	齊藤 武美
13代	古賀為次郎
14代	的場 励
15代	本間 直
16代	小山内小一郎
17代	石井又次郎
18代	窪田 元治
19代	小貴勝三郎
20代	本間 直
21代	佐藤 久治
22代	佐藤 豊英
23代	真田 甚八

年号西暦	事 項
明治九 一八七六	・全道を大小区画に定め、三十大区百六十六小区とする。久遠郡は八大区三小区となる。
十 一八七七	・函館病院久遠出張所を廃止する。
十一 一八七八	・八月、第八大区区務所を一艘澗村に置き、第三小区長に菊地又次郎、副戸長に石橋健吉を任命する。
十二 一八七九	・函館本願寺営刹中の大乘坊を移す。寺号の認可を得て大乘寺となる。
十三 一八八〇	・郡区町村編成法により大小区を廃し郡区町村を置く。一艘澗に久遠・奥尻・太櫓・瀬棚郡の郡役所が設置される。郡長代理に柴徹郎を任命する。
十四 一八八一	・開拓使町村戸長事務取扱所を戸長役場と改称し、一艘澗村一番地に置く。
十五 一八八二	・公立久遠学校が一艘澗村に公立上古丹学校が上古丹村に開校する。
	・三艘澗村に五等郵便局を開設する。
	・貝取澗外二村戸長役場を平田内村より貝取澗村に移転する。
	・日方泊・三艘澗・一艘澗村が合併し、久遠村となる。
	・久遠村巡査交番所が設置される。
	・太田村に五等郵便局を置く。
	・平田内村白別川渡船場あり、渡銭一人一錢五厘であった。
	・公立平田内学校・公立湯ノ尻学校・公立太田学校・公立長磯学校・公立貝取澗学校が開校する。
	・開拓使を廃し、函館・根室・札幌の三県を置く。

定燈籠

社務所そばの定燈籠 太田山と形どる
台座の岩に文字がすか 安政四年と読みとれる 隣合わせの岩一つ 不思議や不思議
その形 海亀岩が 首もたげ



獅子岩

岬の名前は 尾花岬 大海原を えぐるよう
その突端の形象を まなこらしてよく見
れば 獲物をねらい 待ち伏せる 百獣の王
獅子に似る 味なことする 自然の妙 神
の造形 摩訶不思議



[illegible]

明治十六	一八八三	・久遠村に消防組ができる。上古丹村宮古で消防足揃式を挙行する。
十七	一八八四	・太田村漁業協同組合業務を開始する（頭取神野彦三郎）。 ・柴郡長転出する。函館県御用係林顕三が郡長に任命される。
十八	一八八五	・函館県より西洋農具ブラオ・バローなど借用し各郡部に試みさせた。
十九	一八八六	・一月三日久遠神社で久遠いも祭りを行う。
二十	一八八七	・各郡区役所所在地に警察署を設置する。署長は郡長が兼任する。 ・郡役所雇員三浦金十郎、業務中太櫓山中の道に迷い命を失う。
二十二	一八八九	・久遠小学校に淳風小学校（湯ノ尻村）上古丹小学校（上古丹村）を合併し宮古へ移転する。
二十三	一八九〇	・林郡長、増毛外五郡長兼宗谷各郡長となり転出する。十倉綱紀郡長心得となる。 ・宮古に郡役所が落成し移転する。
二十四	一八九一	・久遠外三郡役所、檜山・爾志郡役所に統合される。
二十五	一八九二	・函館・江差・久遠・瀬棚・奥尻間に通運便が開始する。
二十九	一八九六	・加藤重兵衛、鯨陸揚機械を漁場に据え付けし、労働の軽減を図る。 ・私設久遠村消防組が公設久遠村消防組と改称される。



伝統を継承し、全国大会で演舞
する大成高等学校生徒
(平成15年8月福井市にて)

■町の文化財「久遠神楽」

明治三十年（一八九七年）青森県から鯨漁に夢をさせ、久遠村一郷潤に移住の久保金次弟次郎の二人は故郷を偲び南部神楽を宮古の青年団に教へ舞ったのが始まり、爾來百八年連綿と続く。町の諸行事・祭典等に披露し町民に愛され親しまれている歴史と伝統を有する町の「無形文化財」久遠神楽である。平成元年に大成高等学校が郷土の伝統芸能を学びたいと意欲を示し熱心に練習を始め、その成果は全道高等学校芸能大会において最優秀賞の栄冠を勝ち得た。また、平成四年沖縄県での全国大会に北海道代表として久遠神楽を演舞し、「文化奨励賞」を受賞した。

宮古に移転された郡役所
(明治23年)



12代	11代	10代	9代	8代	7代	6代	5代	4代	3代	2代	初代	歴代
樹田	樹田	高山	高山	山本	山本	泉本	早川	越野	手塚	桑原	中島	氏名
正信	正信	實茂	實茂	實茂	實茂	富春	富春	富春	富春	富春	富春	大貝
H16	H15	H12	H8	H4	S63	S59	S55	S51	S47	S43	S41	就任年月日
7	2	7	7	7	7	7	7	7	7	7	10	町
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	1	退任年月日
H17	H16	H15	H12	H8	H4	S63	S59	S55	S51	S47	S43	就任年月日
8	7	2	7	7	7	7	7	7	7	7	7	退任年月日
31	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	

■歴代議会議長

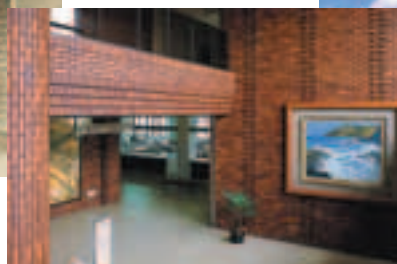
12代	11代	10代	9代	8代	7代	6代	5代	4代	3代	2代	初代	歴代
高畑	山本	早川	早川	早川	久保	手塚	久保	久保	朝倉	朝倉	桑原	氏名
實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	實茂	大貝
H15	H12	H8	H4	S63	S59	S55	S51	S47	S43	S41	S39	就任年月日
2	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	10	町
21	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	1	退任年月日
H17	H15	H12	H8	H4	S63	S59	S55	S51	S47	S43	S41	就任年月日
8	2	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	退任年月日
31	3	19	19	19	19	19	10	19	28	19	19	

■歴代議会議長

年号	西暦	事項
明治三十一	一八九八	・貝取潤・久遠・太田・上古丹・湯ノ尻漁業組合事務所設置される。
三十二	一八九九	・江差裁判所久遠出張所設置される。
三十三	一九〇一	・久遠尋常高等小学校高等科生徒四十六名が奥尻へ五泊六日の修学旅行を実施する。
三十四	一九〇二	・北海道二級町村制施行、久遠村となる。
三十五	一九〇三	・湯ノ尻及び山中に冬期間分教場設立される。
三十六	一九〇五	・又タツブ原野払下げ認可となる。一戸五千坪 総坪六十三万坪。
三十八	一九〇五	・太田郵便取扱所が郵便局となる。
四十三	一九一〇	・堤勘五郎が貝取潤郵便取扱所を置く。
四十四	一九一一	・ロシア貨物船エルマーク号小歌岬で座礁する。
大正二	一九一三	・平田内の村社稲荷神社、無格社を久遠神社に合祀する。
三	一九一四	・貝取潤外二村漁業組合設立認可される。
四	一九一五	・太田漁業組合設立認可される。
十一	一九二二	・長磯青年会が発足、会員二十八名。
十二	一九二三	・湯ノ尻・幌島特別教場が開始となる。
		・六月、太田神社本殿を焼失、九月に本殿が再建される。
		・十二月、見市発電所が竣工され、二百四十キロワットの送電となり熊石・久遠点灯開始となる。
		・四月、戸長役場が全廃、町村制が施行される。
		・貝取潤外二村に二級町村制が敷かれ貝取潤村となる。



役場庁舎ロビー



第1次庁舎

大正12年12月に建設され、昭和36年まで使用された第1次庁舎。



現在の役場庁舎
昭和五十八年七月旧役場庁舎が解体され、翌五十九年八月新庁舎が完成する。

歴代										初代		2代		初代		歴代			
3代										4代		5代		6代		7代		8代	
久保										越野		堤分		堀本		今野		2代	
久貴谷孝一										佐藤之朗		久貴谷俊夫		佐藤之朗		久貴谷孝一		初代	
氏名										氏名		氏名		氏名		氏名		氏名	
就任年月日										就任年月日		就任年月日		就任年月日		就任年月日		就任年月日	
退任年月日										退任年月日		退任年月日		退任年月日		退任年月日		退任年月日	

2代	初代	歴代	2代	初代	歴代	初代	歴代	初代	歴代
田中	堤秀三郎	氏名	堤秀三郎	越前寛	藤井福春	氏名	越前寛	越前寛	氏名
英一		大		大		久			貝
H 9 . 8 . 1	S 41 . 10 . 1	就任年月日	S 36 . 30 . 7 . 26	S 30 . 7 . 20	S 27 . 11 . 1	就任年月日	S 27 . 11 . 1	就任年月日	取潤村
H 17 . 8 . 31	H 9 . 7 . 31	退任年月日	S 41 . 36 . 9 . 31	S 36 . 7 . 25	S 30 . 7 . 19	退任年月日	S 30 . 7 . 19	退任年月日	

[illegible]

大正十二	一九三三	・ 十二月、久遠村役場が新築となる。
昭和 元	一九二六	・ 江差警察署久遠分署が久遠警察署となる。
二	一九二七	・ アメリカ国際児童親善会より青い目の人形が久遠尋常高等小学校に届き歓迎会を開催する。
五	一九三〇	・ 久遠村伝染病患者収容所が開所する。 ・ 久遠警察署長、下田警部補が釜歌野で刺され死亡する。
七	一九三二	・ 太田神社道南霊場第一位に選ばれる（函館タイムス主催）。 ・ 久遠船入澗第一期工事が着工する。
八	一九三三	・ 久遠・東瀬棚間の乗合バス運行が開始される。
十	一九三五	・ 太田船入澗が着工する。 ・ 久遠村で電話業務開始する（加入者二十戸）。 ・ 無限責任久遠漁協組織、太田漁協組織、貝取澗漁協組織が改定認可となる。
十二	一九三七	・ 太田神社登山口大鳥居・階段竣工する。 ・ 小川に久遠鉦山開鉦される（昭和炭油株式会社久遠鉦業所）。 ・ 貝取澗村に消防団が結成される。
十四	一九三九	・ 久遠村消防組が久遠村警防団に、貝取澗村防護団が貝取澗村警防団に改称される。
十五	一九四〇	・ 久遠村、貝取澗村各字を廃し、新字名に改称される。
十六	一九四一	・ 国民学校令公布、小学校を国民学校と改称する。
十七	一九四二	・ 十二月八日、太平洋戦争が勃発する。
十九	一九四四	・ 久遠警察署廃止、久遠警部補派出所となる。 ・ 宮野郵便局が開局する。



■叙位・叙勲受章者

勲章の種類	受章者氏名	勲章時年齢	受章年月日	功労内容
正六位勲五等瑞宝章	吉岡亀之助	70歳	(特別) S 44 . 7 . 31	地方自治
勲五等瑞宝章	桑原 亀蔵	76歳	S 45 . 4 . 29	地方自治
勲六等単光旭日章	斉藤 政治	74歳	S 46 . 11 . 3	地方自治
勲五等瑞宝章	佐藤 栄作	77歳	S 49 . 4 . 29	地方自治
勲六等単光旭日章	武藤 勇	75歳	S 50 . 11 . 3	水産業
勲六等瑞宝章	山口 豊治	77歳	(特別) S 51 . 6 . 7	地方自治
正六位勲五等瑞宝章	朝倉 朝吉	62歳	(特別) S 51 . 7 . 9	地方自治
勲六等瑞宝章	斉藤 太吉	76歳	S 51 . 11 . 3	統計
勲六等単光旭日章	青山 為雄	78歳	(特別) S 53 . 2 . 8	地方自治
勲五等双光旭日章	久保欽次郎	70歳	S 53 . 4 . 29	地方自治
勲七等瑞宝章	三上 豊作	63歳	S 54 . 4 . 29	消防
勲六等単光旭日章	内糸 勇晴	72歳	(特別) S 54 . 9 . 11	地方自治

勲章の種類	受章者氏名	勲章時年齢	受章年月日	功労内容
正六位	桑原 亀蔵	85歳	(特旨叙位) S 54 . 11 . 28	地方自治
勲七等瑞宝章	上野又五郎	63歳	S 55 . 11 . 3	消防
勲六等瑞宝章	小田桐繁成	63歳	S 58 . 1 . 21	地方自治
勲五等瑞宝章	守山 喜作	72歳	S 58 . 4 . 29	社会福祉
勲七等青色桐葉章	石橋 儀蔵	63歳	S 58 . 11 . 3	消防
勲五等瑞宝章	荒谷彌実路	81歳	S 61 . 4 . 29	地方自治
勲六等瑞宝章	佐藤 雪夫	64歳	S 62 . 4 . 29	消防
勲六等単光旭日章	藤谷初三郎	80歳	(特別) S 62 . 10 . 15	地方自治
従六位勲五等双光旭日章	高薄 登	69歳	(特別) S 62 . 10 . 20	地方自治
勲六等単光旭日章	川村 初富	63歳	(特別) S 63 . 9 . 30	地方自治
勲五等瑞宝章	大野喜三郎	81歳	H 1 . 4 . 29	地方自治
勲六等瑞宝章	瀬川 吉也	65歳	H 1 . 11 . 3	消防

年 号 西 暦	事 項
昭和二十 一九四五	・第二次世界大戦終わる。
二十 一九四七	・新学制による小・中学校発足する。 ・久遠中学校・久遠中学校太田分校・平田内中学校・貝取潤中学校・長磯中学校が開校する。 ・久遠村警防団が久遠村消防団と改称される。 ・貝取潤村警防団が貝取潤村消防団と改称される。
二十三 一九四八	・今金高等学校久遠分校が設置認可となる。
二十四 一九四九	・第一回成人式が開催される。 ・今金高等学校久遠分校が開校する(於久遠小学校)。
二十五 一九五〇	・今金高等学校久遠分校は東瀬棚高等学校久遠分校と改称される。 ・貝取潤村、岩手県から漁業者の副業として短角牛十五頭入れる。
二十六 一九五一	・貝取潤村立平田内小学校平和分校が開校する。 ・久遠漁港第二種漁港となる。 ・久遠村で水道工事に着手する。(三ヶ年計画)
二十七 一九五二	・渡島信用金庫久遠支店開業する。 ・久遠村・貝取潤村教育委員会が発足する。 ・東瀬棚高等学校久遠分校が北海道久遠高等学校として認可される。 ・道立宮野診療所開設となる。
二十八 一九五三	・久遠小学校富磯分校開校する(昭和二十七年十二月一日認可、四年生まで)。 ・大成町保育所・長磯公民館新築落成する。

■叙位・叙勲受章者

勲章の種類	受章者氏名	勲章時年齢	受章年月日	功労内容
勲六等瑞宝章	松前 幸男	60歳	(特別) H 2 . 3 . 2	消防
藍綬褒章	大島 政勝	65歳	H 2 . 4 . 29	消防
勲五等双光旭日章	越野與一郎	79歳	H 3 . 4 . 29	地方自治
勲六等瑞宝章	手塚 清一	76歳	H 3 . 11 . 23	地方自治
勲六等単光旭日章	松本與治郎	87歳	(特別) H 4 . 3 . 30	地方自治
勲六等瑞宝章	越前 寛	81歳	(特別) H 4 . 8 . 4	地方自治
勲六等単光旭日章	吉田 角三	80歳	(特別) H 6 . 11 . 14	地方自治
"	新岡勇三郎	81歳	(特別) H 7 . 5 . 23	地方自治
"	佐藤 翠	82歳	H 7 . 11 . 3	社会福祉
勲五等瑞宝章	三輪 猛義	72歳	H 7 . 11 . 3	人権擁護功労
黄綬褒章	朝倉 満雄	57歳	H 7 . 11 . 3	産業振興
勲六等単光旭日章	小田桐康雄	70歳	H 8 . 4 . 29	消防

勲章の種類	受章者氏名	勲章時年齢	受章年月日	功労内容
勲五等双光旭日章	早川新太郎	78歳	H 9 . 11 . 3	地方自治
"	堤 秀三郎	76歳	H 9 . 11 . 3	教育行政
勲六等瑞宝章	杉村 福三	73歳	H 11 . 4 . 29	消防
勲六等瑞宝章	五十嵐新悦	58歳	(特別) H 11 . 5 . 13	消防
"	伊吹 昌紫	70歳	H 12 . 4 . 29	消防
勲五等双光旭日章	守山 喜三	76歳	H 14 . 11 . 3	地方自治
正六位勲五等瑞宝章	山本 茂	72歳	(特旨叙位) H 15 . 2 . 2	地方自治
勲五等瑞宝章	前田幸之進	77歳	H 15 . 4 . 29	消防
藍綬褒章	成田恭太郎	86歳	H 15 . 4 . 29	統計
瑞宝双光章	大島 政勝	79歳	H 15 . 11 . 3	消防
旭日単光章	越前 義政	77歳	(特別) H 17 . 6 . 11	地方自治
瑞宝単光章	川村 盛吉	69歳	(特別) H 17 . 6 . 28	消防

町章

久遠村・貝取澗村合併を記念し、昭和三十年七月二十日に町章が制定されました。中央に町名の「大」を置き「成」の字を上の半月と下の半月にわけて図案化したもので、全体の円形は住民の融和と団結、上下の半月は海と山の豊富な資源を表し、町の躍進を表しています。



■町民憲章

町民憲章は昭和五十五年十一月三日に制定されました。

わたしたちは 日本海の潮騒を生活の調べとして育った大成町民です。
恵まれた自然と先人の偉業を誇りとし力をあわせ住みよい町をつくることに努めます。

- ・健康で明るい大成町民 心なごむ町
- ・生産に励む 大成町民 伸びゆく町
- ・きまりを守る大成町民 平和な町
- ・自然を生かす大成町民 美しい町
- ・文化を創る 大成町民 豊かな町

同時に町の木として「オンコ」

町の花として「エゾヤマツツジ」を制定しました。

昭和二十九	一九五四	・宮野、白泉に漁港築設される。 ・第四回檜山（北部）消防総合訓練大会開催される。 ・花歌簡易水道工事に着手し十一月給水開始となる。 ・台風十五号が襲来し死者一名発生する。家屋・漁船被害甚大。 ・久遠漁業協同組合と太田漁業協同組合が合併する。
三十一	一九五五	・平田内小学校平和分校が独立認可となり平和小中学校となる。 ・太田水力発電施設完成する。 ・七月二十日、久遠村と貝取澗村が合併し大成村となる。 ・村章が制定される。 ・久遠村消防団と貝取澗村消防団が統合され、大成村消防団と改称される。 ・各地区に区長を置く。
三十一	一九五六	
三十二	一九五七	・村道久遠太櫓線が産業開発道路に指定される。 ・小歌岬に灯台完成する。
三十三	一九五八	・大成地区農業改良普及所が宮野に開設する。
三十四	一九五九	・台風十四号襲来し死者一名、家屋漁船に被害甚大（自衛隊救護五百余名）。 ・上浦漁港竣工する。
三十五	一九六〇	・檜山道立公園に指定される。 ・大成高等学校新築落成・開校十周年記念式典を挙げる。 ・大成村商工会設立総会開催。会長に大野友二郎氏就任する。

■大成村の誕生

昭和二十八年（一九三五）九月一日、町村合併促進法が公布され、当時は全国九千八百余町村のうち、町村の標準規模と言われる人口八千人に満たない町村が八十五パーセントを占めていたが、これを合併して三千余の町村に減らす方針が明らかにされたことを受けて「久遠村」と「貝取澗村」との間で「町村合併促進準備委員会」を設置するなどして合併協議を行うこととなった。

昭和三十年四月十六日、久遠村、貝取澗村合併促進協議会設置に関する協議書が取り交わされ、同年六月十四日開催の協議会において合併時期を七月二十日と定めた。

久遠村、貝取澗村の合併に伴う村名の決定に当たっては、新村にふさわしい呼称を町民より公募し、二二一点の応募の中から、字本陣の太田雄二氏が応募した「大成」に決定された。



■町制施行当時の久遠港と久遠市街地（昭和41年8月撮影）

当時の人口は6,800人余、世帯数は1,200戸余でにぎわいのある市街地を形成しておりました。



大成中学校で行われた「町制施行記念式典」
(参加者約300名)

■「大成村」から「大成町」へ
町制施行を祝うため、昭和四十一年十月一日午前七時の打ち上げ花火を合図に町内全世帯に日の丸の国旗が掲揚され、青年相撲大会、漁船の海上パレード、花火大会など数々の記念行事が町を挙げて行われた。



元気いっぱいな久遠小学校1年2組の生徒
(昭和39年4月撮影)

年号西暦	事 項
昭和三十六 一九六一	・村で始めてブルドーザを購入する。
三十七 一九六二	・第十二回檜山管内消防総合訓練大会が開催される。 ・貝取潤巡査駐在所が宮野巡査駐在所となる。
三十八 一九六三	・大成高等学校水産科を普通科とする。 ・大成村国民健康保険診療所が開設する。 ・九月十六日発生の集中豪雨により富磯分校流失、住宅全壊三十二棟他大被害。
三十九 一九六四	・平和小中学校廃校となる。 ・久遠小学校富磯分校校舎落成式を挙げる。
四十 一九六五	・大成村国保診療所が増床され国保病院となる。
四十一 一九六六	・町制施行となり「大成町」が誕生する。 ・NHK・HBC・STV・マウンテン・トップ方式」中継所が穴潤山頂に完成する。
四十四 一九六九	・日本ボーイスカウト誕生する(大成団員長本間孝一、少年隊長清水義孝)。 ・宮野町内会設立される。 ・常磐温泉砂貝取潤川添村迄の三・六キロメートル掘削され自動車通行可能となる。
四十五 一九七〇	・大成町消防団消防車庫完成する。
四十六 一九七一	・久遠漁港が日本海さけ、ます流し網陸揚指定港となる。 ・平浜会館・長磯生活改善センター・上浦生活館落成する。
四十七 一九七二	・大成町母子健康センターが開設される。 ・大成町議会議事堂及び宮野生活改善センター完成する。 ・大成町観光協会設立総会開催される。会長に朝倉朝吉氏就任する。



昭和四十一年十月一日町制施行でにぎわう久遠市街地の様子。

■貝取澗地区漁村再開発事業

昭和五十一年三月二十七日、貝取澗温泉が国民保養温泉地に指定（環境庁告示第二十七号）されたことを受け、将来の展望に立つて、先人の残した生活文化遺産 地域資源を活かし、町民が夢と希望を託し得る生産と生活が調和した地域開発促進を願い始まったのが貝取澗地区漁村再開発事業である。豊富な温泉資源を活かし、俗化されない自然景観を活用しながら沿岸資源増大に資するため各種施設の建設事業が進められ文化的・近代的な施設整備を実現し、地域住民の就業機会の増大を図った。

整備された主な施設

- あわび種育苗センター・ヒラメ養殖施設
- 国民宿舎「あわび山荘」・国民温泉保養センター
- 老人いこいの家・貝取澗公園
- テニスコート・野営場周辺の環境整備



岩風呂づくりの大浴場と新鮮な食材で観光客をもてなす国民宿舎「あわび山荘」



野営場におけるキャンプ風景

昭和四十八	一九七三	・久遠小学校校舎改築落成式を挙行する。 ・第二十三回檜山管内消防総合訓練大会開催される。 ・あわび蓄養施設長磯に完成する。 ・花歌生活館完成する。 ・檜山広域消防組合消防署大成支署発足する（定員九名）。
四十九	一九七四	・久遠局区内電話自動化となる（加入電話七百九十戸）。 ・貝取澗にあわび種育苗供給センターが建設される。 ・国民温泉保養センターがオープンされる。
五十	一九七五	・貝取澗温泉が国民温泉保養地に指定される。 ・老人いこいの家がオープンされる。 ・第一回ふるさと港まつり・納涼花火大会が久遠漁港で開催される。
五十一	一九七六	・都船場場上浦漁港分港として漁港に指定（農林省告示）される。 ・久遠神楽保存会が発足される。 ・婦人防火クラブ、消防長官から火災予防普及により表彰される。 ・「大成町の歩み」発刊する。 ・町民体育施設プール・テニスコート・エスキート完成する。 ・都ことぶきの家竣工する。
五十二	一九七七	・富磯生活館・宮野保育園竣工する。 ・長磯・久遠・太田・平田内・貝取澗・各中学校開校式を挙行する。 ・大成中学校生徒通学のため、スクールバスを購入する。 ・大成中学校開校式・入学式（旧久遠中学校体育館）を挙行する。 ・十二月、大成中学校落成式を挙行する。
五十三	一九七八	



町制施行記念行事で久遠神楽の演舞披露（役場前にて）

■町の学校の变迁

明治二十年十月、久遠・奥尻・太櫓・瀬棚郡四郡の郡役所が設置され、久遠は政治・経済等の拠点として重要な位置を占めていた。時の郡長代理の柴徹郎は将来を担う子弟教育のための学校設立に熱心で、時の村々の有力者である戸長・総代・組頭等を招集し熱心に説得を続け、有力者はそれに呼応し学校の設立に努力、明治十三年には久遠学校・上古丹学校を誕生させ、十五年には長磯・貝取澗・平田内学校が産声を上げる快挙をなした。学校教育に対する先人の先見の明と努力に対し敬意を表するものです。

■学校の变迁（合併・統合・休校・廃校等）

明治十三	十二月十日	公立久遠学校 一艘村に開校
十五	七月十日	公立上古丹学校 上古丹村に開校
十月	七月十日	公立平田内学校 平田内村に開校
十月	五月	公立長磯学校 長磯村に開校
十二月	八月	公立太田学校 太田村に開校
十二月	十日	公立湯ノ尻学校（後淳風学校に改称）湯ノ尻村に開校
十二月	十日	公立貝取澗学校 貝取澗村に開校
十二月	十日	久遠小学校は淳風小学校・上古丹小学校と合併し宮古へ移転
三十四	六月四日	久遠尋常高等小学校 高等科生徒四十六名奥尻島へ五泊六日の修学旅行を実施
大正八	三月十四日	久遠尋常高等小学校第一回学芸会を開催
昭和二	五月九日	アメリカ国際児童慈善会寄贈の青い目の人形久遠尋常高等小学校に届く
五月十一日		青い目の人形歓迎会を開催
十六	四月一日	尋常小学校・尋常高等小学校を国民学校と改称
三十三	三月十日	教育基本法制定・学校教育法公布学制が六・三・三・四となる
四月一日		新学制による小学校・中学校が発足
五月	三日	久遠中学校開校 久遠小学校に併置
		久遠中学校太田分校、太田小学校に併置
		平田内中学校開校、平田内小学校に併置校として
		貝取澗中学校開校、貝取澗小学校に併置校として
		長磯中学校開校、長磯小学校に併置校として
三十三	十一月十五日	今金高等学校久遠分校、設置認可
三十四	四月十日	今金高等学校久遠分校が開校
三十五	四月一日	今金高等学校久遠分校が北檜山高等学校久遠分校となる
三十六	二月三日	貝取澗村立並内小学校平和分校が開校
三十七	四月一日	北檜山高等学校久遠分校が東瀬棚高等学校久遠分校と改称

年 号	西 暦	事 項
昭和五十四	一九七九	・大成町民センター落成式が挙行される。
五十五	一九八〇	・大成町民憲章制定される。
		・町立図書館オープンする（蔵書数二千八百冊）。
		・郡役所跡に碑建立、貝取澗に漁村再開発事業完成記念碑を建立する。
		・久遠小学校開校百周年記念式典が挙行される。
		・大成高等学校全日制課程認可となる。
五十六	一九八一	・株式会社大成紳装工場閉鎖となる（従業員三十二名）。
		・町民グラウンドオープンする。
		・尾花岬沖合、貨物船祥海丸三千五百トン遭難沈没する。三遺体収容、二人救助、翌日さらに六遺体、次の日一遺体収容される。
		・大成消防団が地域防災の尽力により北海道知事より表彰旗を授与する。
		・学校給食センター落成する。
五十七	一九八二	・町内小中学校の学校給食が開始される。
		・郷土館・大成町農漁村総合センターオープンする。
		・長磯小学校改築落成式並びに創立百周年記念式典が挙行される。
五十八	一九八三	・太田小学校開校百周年記念式典が挙行される。
		・貝取澗小学校開校百周年記念式典が挙行される。
		・旧役場庁舎解体される。
		・第三十三回檜山管内消防総合訓練大会開催される。
		・日本海中部地震津波発生する。漁船破損漁港破壊被害甚大。
五十九	一九八四	・大成町開基百十五年役場庁舎落成記念式典が挙行される。

水産種苗育成センターの全景

昭和五十一年に北海道内で初めて温泉熱を利用したアワビの種苗生産を開始。その後「つくり育てる漁業」を積極的に推進するため平成九年・十年の両年にわたり日本海特定海域栽培漁業定着強化事業の認定を受け新たにアワビの生産施設整備を図る。



あわび種苗育成センターにおける「アワビ」の中間飼育状況

平成7年10月完成の大成高等学校



昭和七	十一月一日	東瀬欄高等学校久遠分校が北海道久遠高等学校として認可。
二八	十一月五日	平田内小学校分校が改築。
二八	四月一日	久遠小学校富磯分校が開校（昭和二・一認可、四年生まで）。
三三	四月一日	平田内小学校分校が独立認可され、平田内小学校となる。
三五	四月四日	大成高等学校校舎新築落成開校十周年記念式を挙げる。
三八	九月十六日	集中豪雨にて富磯分校が流失。
三九	七月三十日	平和小学校が廃校。
四十	十一月十九日	富磯分校校舎落成式を挙げる。
四一	三月十日	太田小学校校舎新築。
四二	一月十五日	久遠小学校校舎改築落成式を挙げる。
四三	三月十四日	長磯中学校開校式を挙げる。
四三	三月十九日	久遠、太田、平田内、貝取淵中学校開校式を挙げる。
四四	四月五日	大成中学校開校式・入学式を挙げる。町内中学校一校となる。
四六	十二月六日	大成中学校校舎が改築。
四六	四月八日	大成高等学校全日制課程認可（十一月十日）入学式を挙げる。
四七	四月十日	町内小中学校の給食が開始。
四八	十一月十日	長磯小学校改築落成並びに創立百周年記念式典を挙げる。
四八	一月八日	太田小学校、貝取淵小学校開校百周年記念式典を挙げる。
四八	十月十日	大成高等学校郷土芸能クラブが久遠神楽で優秀賞を受賞。
四八	三月十日	太田小学校百十二年の歴史に幕、休校となる。
四八	六月十日	貝取淵小学校百十二年の歴史に幕、休校となる。

昭和五十九	一九四八	・開基百十五年の記念事業として町内小学校陸上競技・カオケ大会・野球大会・町民大運動会・ゲートボール大会・バスケットボール大会等が開催される。 ・特別養護老人ホーム「大成長生園」オープンする。 ・婦人防火クラブ檜山地区大会開催される。四百余名市街地を行進する。 ・第一回町民歩こう会開催される。二百余名が参加する。 ・東部町内会設立される。 ・奇岩親子熊岩道南五景に選ばれる「あなたが選ぶ北海道」絵ハガキ図案。 ・「クン・ルー夢の国」本格焼酎を大成産として売り出す。 ・ヒラメの海中飼育を開始する。本陣町内会設立される。 ・NHKドラマ「円空」撮影のため俳優丹波哲郎・女優倍賞美智子等来町、撮影に入る。 ・定灯籠百三十一年ぶりに復元（安政四年の奉納）される。
六十二	一九八七	
六十三	一九八八	
平成元	一九八九	・交通事故死ゼロ二千日達成表彰される。 ・ふるさと創生資金一億円の事業意見書会長より町長へ提出される。 ・新設の町民スキー場がオープンし第一回町民スキー大会開催される。 ・貝取淵二洞窟発掘調査開始する（開拓記念館六カ年計画）。 ・第一回商業祭開催される。 ・商工会設立三十周年記念式典が挙行される。 ・檜山広域消防組合が檜山広域行政組合に変更され支署は大成消防署に改称される。
二	一九九〇	



大成町の発展に貢献された方々多数が出席（開基115年記念表彰式）

10月5日町民センターで開催された「大成町開基115年・庁舎落成記念式典」



■大成町開基百十五年・役場庁舎落成記念式典

昭和五十九年十月十五日、先人の苦勞のあとを偲んで、町民等しく過去の輝かしい歴史とその栄光に感謝の意を捧げるとともに、次代を担う人々が、これを反省の機会として、大成町の今後一層の開発、発展に役立てていく決意を新たに役場庁舎の落成を機に、ともに築いた百十五年、未来にはばたくゆたかな大成町をメインテーマにかかげ「大成町開基百十五年・役場庁舎落成記念式典」を挙行、多くの記念事業や行事を実施した。

■体験型観光施設整備事業

この事業の始まりとして、北海道南西沖地震発生の年に着手し、翌年の平成六年四月二十九日、道の駅「てつくいランド大成」を平浜の地にオープン。道の駅の発想は「道路にも鉄道の駅のような憩いの場を」との提唱がきっかけとなり、平成五年度から始まった第十一次道路整備計画施策のひとつとして「道の駅」が位置づけられたものです。

道の駅は、二十四時間利用可能な無料の駐車場と清潔なトイレを有し、道路及び地域情報等を提供できる施設となっています。

当駅は、日本海に面し沖合には奥尻島が眺望できる国道二二九号、追分ソールライン沿いに位置し、敷地内にはイベント広場や野外ステージ・温水シャワー施設を備え、町民の交流の場としての役割も担っています。

また、平成九年七月には前浜に「平浜海水浴場」、てつ平・ひらら交流館」が同時にオープンし、体験型レジャー施設の拠点として整備が図られています。



平浜海水浴場風景

道の駅イベント広場で毎年行われている「わっためがして大成」によるよさこい演舞



年 号 西 暦	事 項
平成 三 一 九 九 一	・太田定灯籠展望所、観光トイレ施設整備となる。 ・久遠小学校「緑の少年」結団式開催される（団員二十六名）。 ・社会福祉法人「大成町社会福祉協議会」発足する。会長に石原廣紹氏就任する。 ・大成消防団に初の女性消防団員誕生、団員十一名の入団式を実施する。 ・第四十三回檜山管内消防訓練大会開催される。 ・岐阜県洞戸村へ青年層中心の研修を実施する。
四 一 九 九 二	・七月十二日午後十時十七分、北海道南西沖地震発生し、大津波襲来により大被害発生する。犠牲者十名、被害総額五十億円に達する。 ・大成消防団災害活動の功績により内閣総理大臣・消防庁長官より表彰される。
五 一 九 九 三	・太田小学校百十二年の歴史に幕、休校となる。 ・道の駅「てつくいランド」完成オープンする。 ・岐阜県洞戸村洞戸中学校三年生修学旅行で来町、大成町に一泊し、大成中と交流する。 ・大成町商工会新会館落成式を挙げる。 ・防災行政無線設置工事施行される。
六 一 九 九 四	・大成町農業協同組合が若松農業協同組合に吸収合併となる。 ・大成高等学校校舎改築落成式を挙げる。 ・防災行政無線完成する。 ・湯とびあ白別（白別温泉）オープンする。 ・大成消防団日本消防協会より表彰旗を授与する。
七 一 九 九 五	・デイサービスセンター・在宅介護支援センターオープンする。
八 一 九 九 六	

■特別養護老人ホーム建設事業

世帯構造や生活意識の変化による高齢人口が増加の一途をたどり、寝たきり老人や一人暮らし老人などに対処するため、昭和六十年に五十名を収容できる特別養護老人ホームを建設（鉄筋コンクリート造平家建一、七〇二・八〇平方メートル）。その後、平成八年にデイサービス・介護支援センターが併設され、施設運営は社会福祉法人「大成慈善会」が行っており、毎年、保育園児や子供会、婦人会などが定期的に慰問に訪れ踊りなどを披露しています。



大成保育園児による施設慰問



役場内に設置された放送室からの放送風景



当時、貝取澗地区の穴澗山頂上付近に建設された中継施設。平成十四年に維持管理面や難聴解消などのため対岸の奥尻島高台に移設される。



■防災行政無線整備
災害からの教訓として、情報伝達の迅速化が強く切望され「町民が安心して生活できる防災まちづくり事業」の一環として、平成七年五月に防災行政無線を整備し、現在は多目的な活用が図られている。

平成 八	一九九六	・全国ラジオ体操会が久遠小学校で開催される。 参加者は七百余名。
九	一九九七	・東京大成会創立十五周年記念大会が開催される。 （六十五名参加） ・上浦町内会設立される。 ・てつ平・ひらら交流館がオープンする。 ・平浜海水浴場オープン安全祈願祭執行される。
十	一九九八	・南西沖地震復興 鎮魂の塔除幕式・追悼式を開催する。 ・スポーツ少年団連絡協議会設立十周年記念式典が挙行される。
十一	一九九九	・「がっぱり海の幸フェスタinわつたためがして大成」開催される。 ・十二時間ロングランチャリティソフトボール大会開催される。 ・大成高等学校創立五十周年記念式典祝賀会が挙行される。 ・平浜町内会設立される。
十二	二〇〇〇	・大成町体育協会三十周年記念ソフトボール大会開催される。 ・大成消防団、消防庁長官より竿頭綬を授与する。 ・檜山管内合唱祭開催される。
十三	二〇〇一	・道々北檜山大成線道路改良工事、安全祈願祭を実施する。 ・町村合併検討協議会委員辞令交付式を実施する。
十四	二〇〇二	・西部町内会・みやこの丘自治会設立される。 ・六町親善ミニバレーボール大会開催される。 ・函館バス生活路線（北檜山～大成間）太田区間が延長運行となり太田始発式を実施する。 ・都第五地区町内会・みやこ町内会・都本通町内会・いさりび町内会設立される。

■北海道南西沖地震

平成五年七月十二日午後十時十七分に発生した北海道南西沖地震は未曾有の大災害をもたらし、死者二百名、行方不明者二十九名、家屋全壊五百五十一戸に及ぶなどの被害が発生。大成町においても十名の犠牲者をだし、住宅の全・半壊が七十四戸に及びました。全国各地からは暖かい救護の手や義援金が寄せられ、町としてもいち早く被災者救護や住宅対策を講じるとともに「災害に強い町づくり」に着手し、壊滅的な被害を受けた太田地区集落の再編整備事業や、平浜・上浦地区の防潮水門、防潮堤の建設、災害情報などの伝達手段となる「防災行政無線」を設置するなど、防災体制を確立しました。

町並み整備が図られた太田地区集落



津波被害を受けた直後の状況

帆越山トンネル開通式でテープカット
する関係者



年 号	西 暦	事 項
平成 十五	二〇〇三	・北部四町合併問題協議会を設置する。会長に大成町長就任する。 ・公共下水道一部供用開始される（東部・都間）。公共下水道通水式を実施する。 ・ひやま漁協大成支所事務所開所及び落成式が開催される。
	十六 二〇〇四	・久遠漁港水産物荷捌施設落成式を開催する。長磯町内会設立される。 ・第五十三回檜山管内消防総合訓練大会開催される。 ・大成駐在所新事務所開所式を開催する。 ・北檜山大成線帆越山トンネル開通式を挙行する。 ・台風十八号襲来する。高潮・暴風による被害甚大で犠牲者一名。 ・第十回檜山北部三町合併協議会開催される。 ・町内全地区で住民合併説明会を開催する。 ・十二月七日、檜山北部三町合併協定調印式を開催する。 ・十二月二十一日、廃置分合・議会の議員の定数に関する協議等合併関連議案を大成町議会において可決する。
	十七 二〇〇五	・一月十七日、久遠郡大成町、瀬棚郡瀬棚町及び同郡北檜山町の廃置分合について北海道知事に申請する。 ・二月七日、久遠郡大成町、瀬棚郡瀬棚町及び同郡北檜山町の廃置分合による合併特別区の設置について北海道知事に申請する。 ・三月三十一日、せたな町の属すべき郡の区域を久遠郡とする決定書が北海道より公布される。

久遠地域における排水管渠の布設工事



事業の推進に係わった方による「通水式」
でのテープカット

■特定環境保全公共下水道整備事業
平成九年に特定環境保全公共下水道整備計画が策定され、上浦から湯の尻地区に至る五十九・二ヘクタールの範囲を処理区域とする事業認可を建設省より受けて管渠の布設工事などが進められ、平成十五年に「浄化センター」が完成したことから、同年三月三十一日に「大成町公共下水道通水式」を行い一部区域の供用開始を祝った。

第10回檜山北部合併協議会開催状況



協定書に署名する当町の委員

■「北海道最西端の地」の確認

- 情報提供者 国土地理院北海道測量部 本木氏
- (一) 北海道の北海道最西端の地 北檜山町船隠（尾花岬の北檜山寄り）
 - (二) 位置 北緯四十二度一八分三一秒 東緯一三九度四六分一一秒
 - (三) 大成町尾花岬 北緯 四十二度〇八分（三一秒） 東緯一三九度四六分（一一秒）
- 情報提供者 北海道開拓記念館 学芸員 右代氏
- (一) 北海道の北海道最西端の地 北檜山町船隠（尾花岬の北檜山寄り）
 - (二) 位置 北緯四十二度一八分四五秒 東緯一三九度四六分一二秒
 - (三) 大成町尾花岬 北緯 四十二度一八分〇四秒（四一秒） 東緯一三九度四六分一五秒（〇三秒）

平成十七	二〇〇五
・四月二十八日、町の廃置分合（総務省告示第 五百二十二号）が官報告示される。 ・八月二十四日、大成町表彰式並びに大成町閉 町式が挙行される。 ・八月三十一日、大成町閉庁式が挙行される。	

署名・調印後に握手を交わす3町長



■檜山北部三町合併協定調印式

檜山北部三町合併協議会の合併協定調印式が平成十六年十二月七日に北檜山町健康センターで開催され、合併協議に係わる経過報告の後に、三町の町長が合併協定書に署名・調印し、続いて特別立会人の平沼栄二檜山支庁長と二十二名の協議会委員が署名をしました。